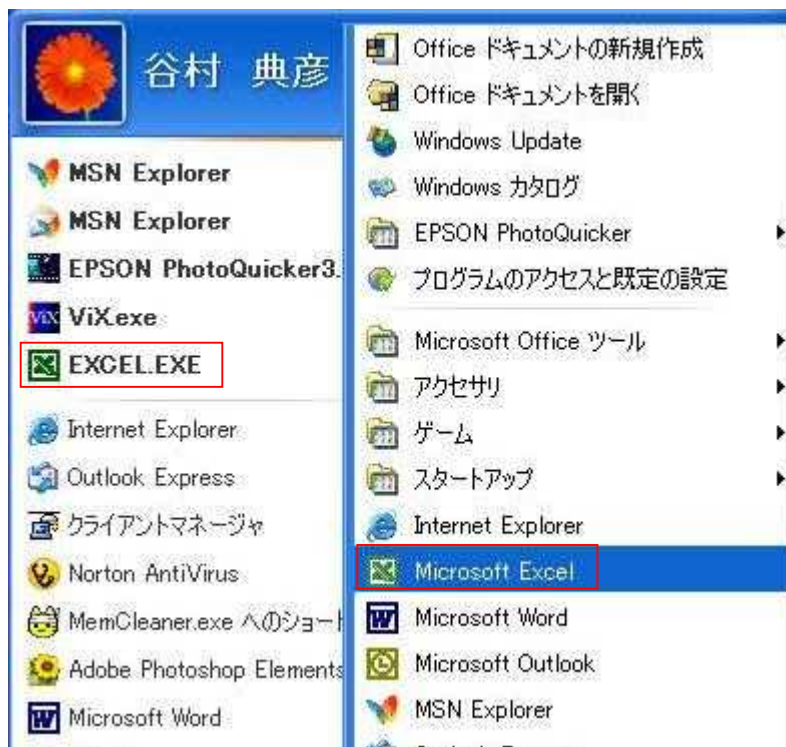


Excelの起動

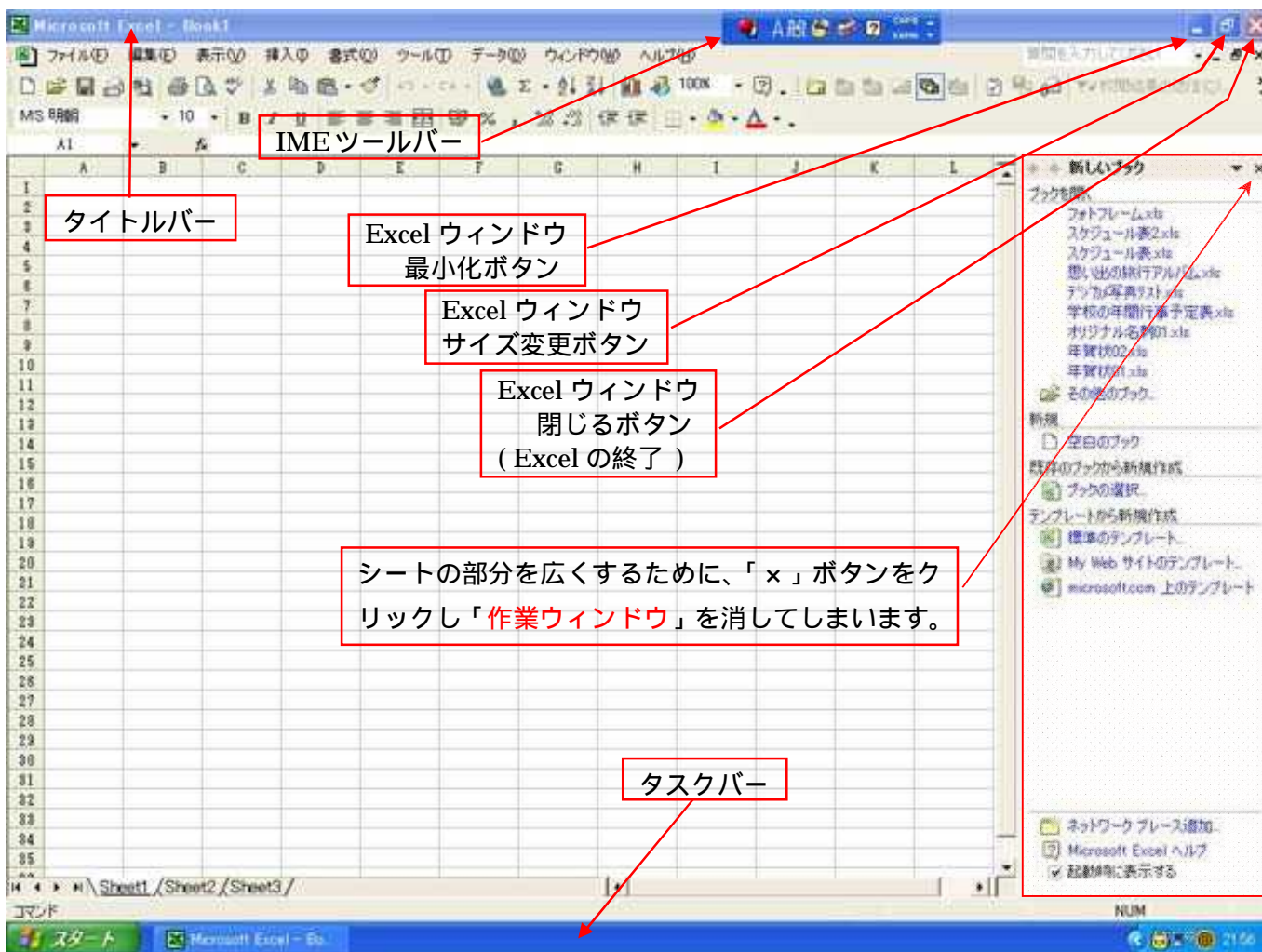
デスクトップにExcelのアイコンがある場合はダブルクリックしてください。



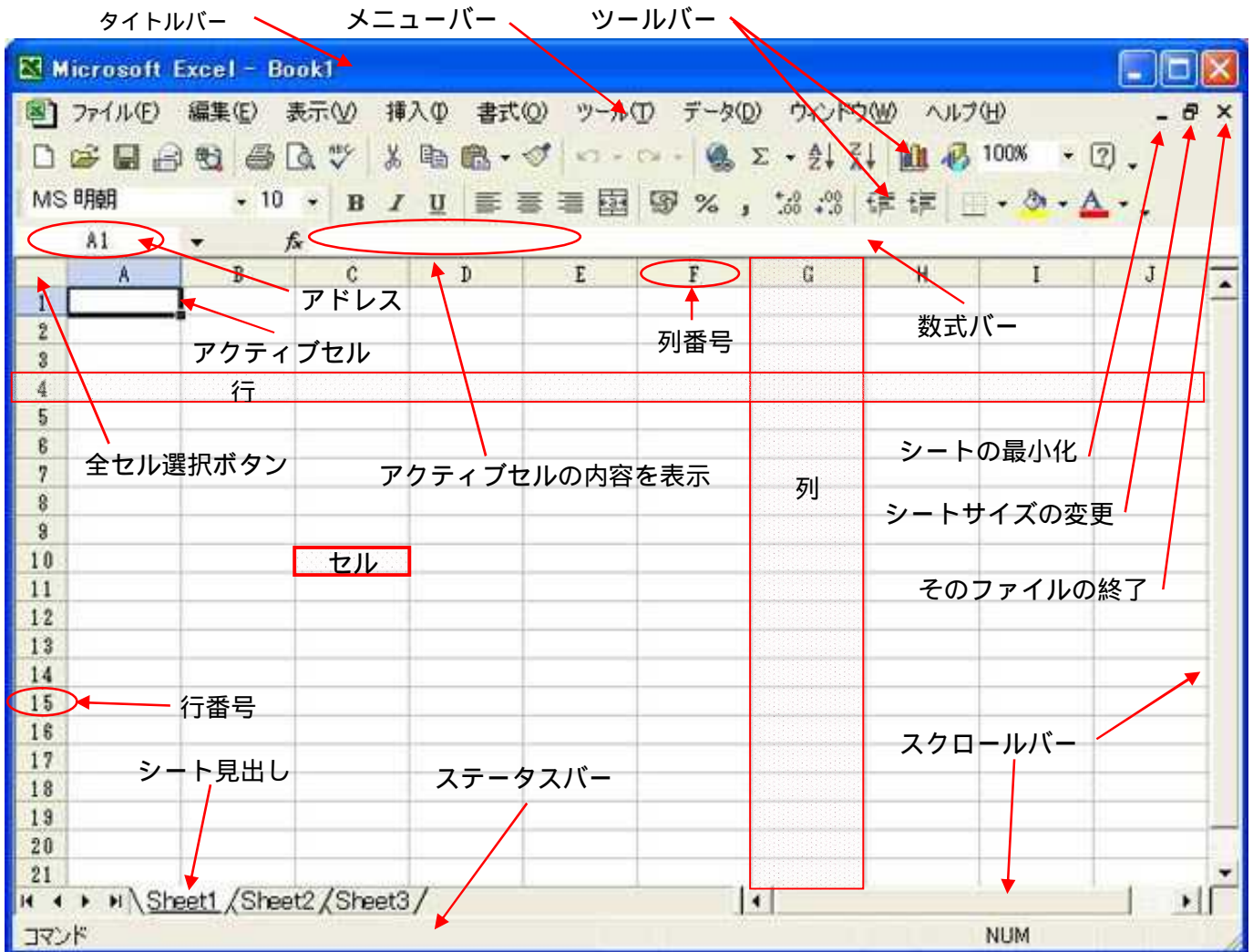
デスクトップにアイコンが無い場合はスタートボタンからスタートメニューの中の、Excelを探し、それをクリックしてください。



起動直後の画面



Excel画面の説明



Excelの設定変更 (使いやすくするため)

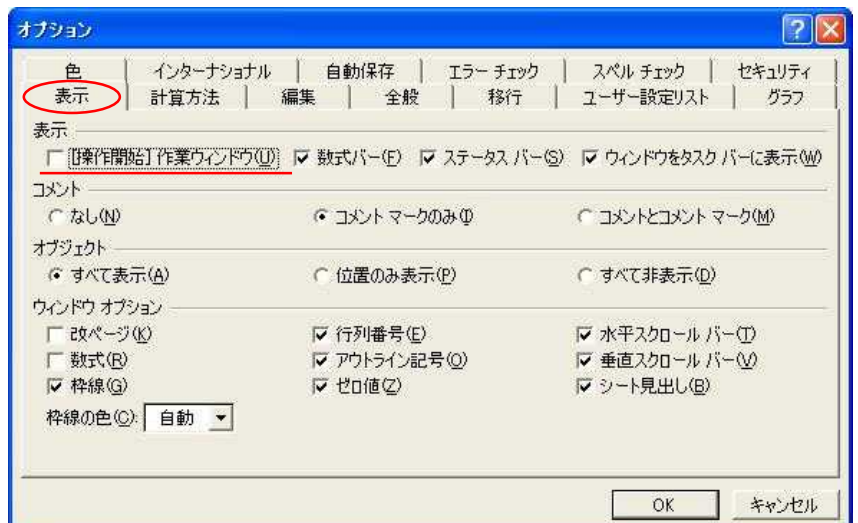
作業ウィンドウを閉じて、セル画面を広くする。

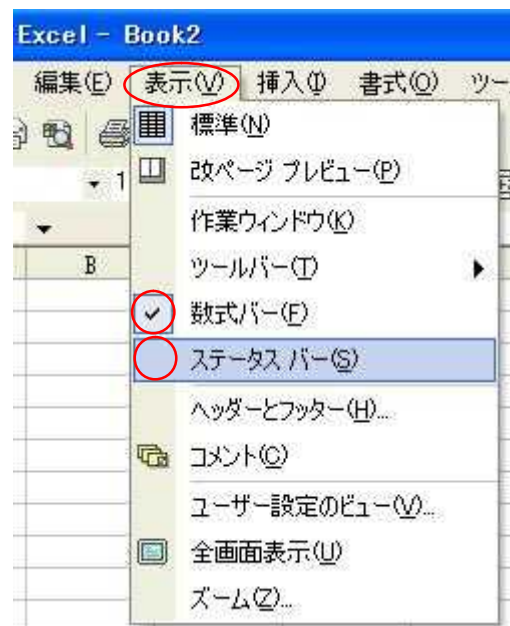
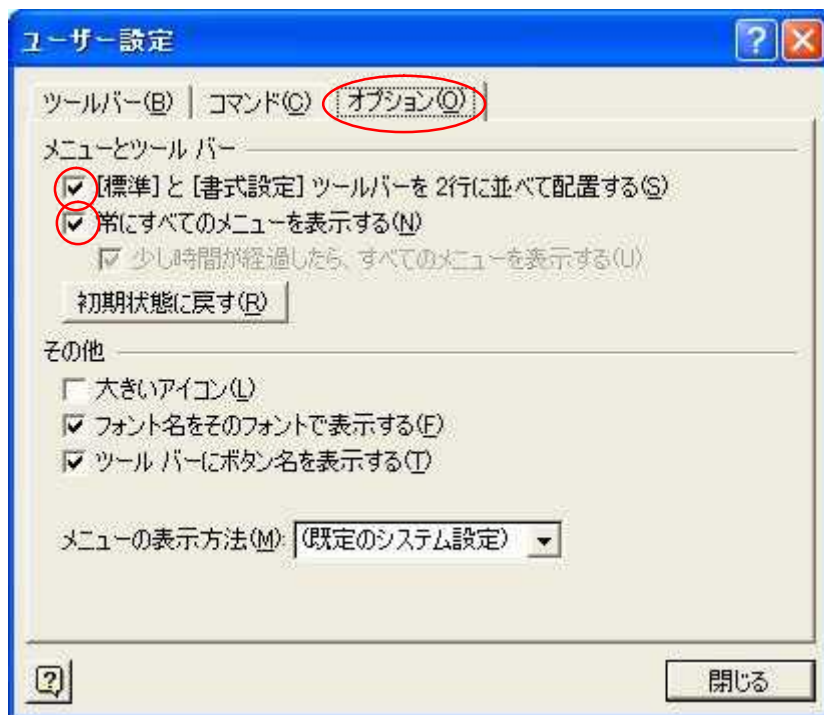
- 作業ウィンドウの右上隅の閉じるボタン『x』をクリックする。(その度ごと閉じる)
 - メニューバー「ツール」をクリックし「オプション」をクリックする。(設定変更)
- 左図「操作開始作業ウィンドウ」のチェックを外す。

イルカ (オフィスアシスタント) の無効化 (便利なこともあるが、煩わしいことが多い)

- メニューバー「ヘルプ」をクリックし「Office アシスタントを隠す」をクリックする。

- メニューをすべて表示させる。(少し待つと表示されるが、すぐに表示させる。)
- 標準ツールバーと書式設定ツールバーを2行で表示する。(すぐ使えるように)
- メニューバー「ツール」をクリックし「ユーザー設定」をクリックする。





数式バーとステータスバーを表示させる。

メニューバー「表示」をクリックし「数式バー」を、さらに「ステータスバー」をクリックする。

Excelのデータとファイル

「セル」そして「行」と「列」

Excel (エクセル) とは、見た感じでは、もの凄く大きな紙の上に、碁盤の目のように升目を作り、その升目の一つを「セル」と呼び、そこに数値や文字を書き込み数式を書き込んで、データの管理をします。

見た目の横方向には、左から右方向へ「A」から「IV」までの『列』と呼ばれる縦に連なる柵で構成され、更に、上から下方向へは「1」から「65536」までの『行』と呼ばれる横に連なる柵で構成されます。

すなわち、セルは列と行の交点の一つであり、『A1』から『IV65536』までのセルがあります。

一つのセルは、交点の『A1』から『IV65536』までの、セルアドレスで場所を表します。

一枚の大きな紙を『シート』と呼びます。

「セル」そして「シート」と「ブック」

Excel では、「セル」にデータを書き込み、「シート」を完成させ、必要により何ページもの「シート」のそれぞれにもデータを書き込みます。それらのすべてをまとめて「ブック」と呼び、一つのファイルとして扱います。

それは、あたかも「一冊のノート=ブック」の中の「一ページ=シート」の、「その一部=セル」に、データを書き込みながら、そのノートをファイルとして管理するのと同じなのです。

Excelでどんなことができるの？

Excel は元々計算 (演算) が得意なソフトなのですが、表形式でセルにデータを書き込み、更にはシートも使い多量のデータを扱い管理することが出来ます。

よって、計算を主体にしてお小遣い帳からデータベース的に使い住所録や一行日記、そしてセルの形式を生かして名刺や葉書の作成にまで、実に幅広く利用できるソフトです。

Excel は表計算ソフトの代表的なもののひとつで、各種計算をすばやく行うことが出来、さまざまなグラフを簡単に作成することが出来ます。また、何度でもデータや計算方法を修正することができるので、シュミレーションにも利用することが出来ます。

Excelでできること

機能 計算機能、グラフ機能、データベース機能、

簡単に表を作成できる、表の中に計算式を埋め込むことが出来てデータの集計が容易、データを元にグラフを簡単に作成できる、データベースの管理も出来る。